

ほろ (セレクト)

(第三種郵便物承認)



障害の有無にかかわらず、一緒に銀幕の世界を楽しめる「シネマ・チュプキ・タバタ」が東京都北区に開業して約半年が過ぎた。月替わりで新旧問わず数本を上映。視覚障害者向けに全作品で登場人物の動きや情景の「音声ガイド」を聞けるようにし、耳が不自由な人のために邦画も字幕付き。約20席の「ユニバーサルシアター」の挑戦に、映画関係者やファンの間で、共感や支援の輪が広がる。

東京の「シネマ・チュプキ・タバタ」開業半年

障害者に映画を



「あん」の上映で、舞台あいさつに訪れた永瀬正敏さん (1月)

広がる支援

音声ガイドに声優 ■ 音響監督が設計協力

「何なの？ フェルナンド」「力なく笑うフェルナンド。ざらついたキャンパスの上に黄土色をなまけていく。各座席のイヤホンをセットすると、吹き替えのせりふと音声ガイドが交互に聞こえてくる。

2月に上映したフランス映画「ニゼと光のアトリエ」は、1940年代に実在した精神科病棟が舞台。電気ショックなど暴力的な治療に反対する女性医師が取り入れた芸術療法で、回復していく患者たちを描いた。

佐藤さんと運営を切り盛りする代表の平塚千穂子さん(44)は、バリアフリー上映に長く取り組み、昨年9月に常設の劇場という夢をかなえた。車いすの人のスペースや、幼い子が泣いたら駆け込める親子室も設けた。工事費など1800万円は、500人以上の寄付で賄った。配給会社から映像の提供を受けた後に、作品を何度も見ながらガイドや邦画の字幕、洋画の吹き替えを自前で用意しなければならず、準備に追われる日々だ。

「映画を見ながら思い巡らす大切な時間を取り戻せた。ガイドのおかげで、客席が少ないために経営は厳しく、平塚さんらは広く支援を呼び掛けている。☎03(6240)8480。

著名な映画関係者もエールを送る。世界的な音響監督、岩浪美和さんは音響設計に協力。人気声優の小野大輔さんは、欧州のアニメ作品の音声ガイドのナレーションを引き受けた。河瀬直美監督の「あん」の上映では、樹木希林さんや永瀬正敏さんが舞台あいさつに立った。河瀬さんは次回作「光」で音声ガイドを取り上げる。

目頭に映像が浮かぶ」。治療院経営の岡野宏治さん(67)は盲導犬を連れてよく訪れる。網膜色素変性症で30代から急激に視力を失ったが、音声ガイドと出会って再び楽しめるようになった。目が見えても、作品を深く味わうためにガイドを利用する人もいる。

クリック

映画の音声ガイド 目が不自由でもストーリーが理解できるよう、図書館などは、視覚障害者向けに情景や登場人物の動き、場面転換、主音声と音声ガイドをダウンロードし、せりふや音楽の合間に説明するナレーション。新作映画の一部を貸し出しており、全国で約300タイトルある。バリアフリーDCast」を使って聞ける。上映会も広がっている。